

人権学習展開例

第2・3学年

- 主題名 多文化共生社会の実現
- 教材名 ひょうたん島問題 ～多文化共生社会の実現を目指して～
- 人権学習の視点 個別的な視点「外国人の人権問題」
- 主題・教材について

「ひょうたん文化」の伝統が根付いた架空の島「ひょうたん島」で、別の2つの島から労働や新生活を求めて移住してきた人々との間で起こる問題を、ロールプレイを通して体験させる。その中で、文化の違いや様々な考え方があることと、そこから生じる違和感や互いに折り合いをつけねばならない状況を感じさせ、多文化共生社会の実現を目指すためには、一人一人が互いを認め、尊重し合う気持ちを大切にしなければならないことを学ばせたい。

●ねらい

多文化共生社会の実現に関心を持たせ、文化や考え方が自分と異なる人たちと共に暮らす社会においても、他者を尊重し、理解する気持ちを大切に行動しようとする態度を身に付けさせる。

●関連する教材

- 人権学習資料集〈中学校編〉「19 ふれあい」(第1・2学年用)
- 人権学習資料集〈中学校編〉「20 人は知ること、たくましくなれる、優しくなれる」(第3学年用)
- 人権学習資料集〈中学校編Ⅱ〉「9 ヘイトスピーチって何？」(第3学年用)

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	○日本に住んでいる外国人について考えさせる。	一斉	○日本には、どのような外国人が生活しているか、考えて発表する。 (予想される発言) ・スポーツ選手 ・英語の先生 ・中国や韓国・朝鮮の人がいるなど ○在日外国人に関わって、どんな問題があるか、知っていることを発表する。	○生活の中で出会う外国人の人々についてイメージさせ、日本での生活の中で、どのような暮らしをし、どのような問題と向き合っているのかを考えさせる。 ○社会科の学習や人権学習等での既習事項を思い出させる。 ○学級に外国につながるのがある生徒が在籍している場合は十分に配慮する。	
展開	○「ひょうたん島問題」について考えさせる。	一斉	○配布資料やスライドの視聴により、シミュレーション教材「ひょうたん島問題」の概要を知る。		スライド 27 まで 配布資料

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
	レベル1 「あいさつがわからない」のロールプレイをやってみよう。				
	<p>○ロールプレイにより、異文化コミュニケーションについて考えさせる。</p> <p>A ひょうたん人 B カチコチ人 C パラダイス人</p> <p>○ロールプレイを振り返らせる。</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p>	<p>○スライド視聴により課題を把握した後、全体で3つのグループに分かれて、ロールプレイを行う。</p> <p>→ カードの指示に従って出会った人とあいさつをかわす。 → 10人(目安)とあいさつをしたら終了などのルールを決めて行う。</p> <p>○活動を振り返り、感想を発表して交流し合う。</p>	<p>○3つのグループに、それぞれA・B・Cの「あいさつカード」を配布し、カードの指示に従って出会った人とあいさつをかわすことを伝える。</p> <p>○指導者が見本も示しながら、それぞれの立場になりきった活発な活動ができるように支援する。</p> <p>○特に他の島の人に出会ったときのことを聞き出し、あいさつの違いは文化の違いであること、どの文化も等しく認められるべきものであることを押さえる。</p>	<p>スライド 33 まで</p> <p>あいさつカード</p>
展 開	レベル2 「カーニバルがやってきた」のロールプレイで話し合おう。				
	<p>○ロールプレイにより、立場や意見が違う相手との話し合いを体験させる。</p>	<p>一斉</p> <p>グループ</p>	<p>○スライド視聴により課題を把握した後、グループに分かれて、ロールプレイを行う。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>①役割分担を決める。</p> <p>②作戦会議 同じ役割どうしが集まり、それぞれの役割・立場を確認し合う。 (役割カードの配布)</p> <p>③ひょうたん島会議 グループ単位で、それぞれが役割になりきり、話し合うロールプレイを実践する。</p> <p>④振り返り ロールプレイに参加して、感じたことや気持ちが変わったことなどを交流し合う。</p>	<p>○スライドの読み聞かせを行い、この後の活動を、具体的にイメージさせる。</p> <p>○①②で時間がかかり過ぎないように、時間を指定してスムーズに進行させる。</p> <p>○②は予め会議リーダーを指定して、「その役割での考え方、意見」をメンバーに説明させる。</p> <p>○③に入る前には「活動のねらい」と「話し合いのルール」を確認し、積極的な参加を促す。</p> <p>○③の話し合い中は、生徒一人一人の考えを大切に、各グループの活動を支援する。</p> <p>○設定が可能ならば、①～③を2回実施して、違う立場を経験させることが望ましい。(感じ方の違いをより実感することができ、学習効果が高まる。)</p>	<p>スライド 48 まで</p> <p>役割カード</p>

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
まとめ	○本時の学習を振り返らせる。 ○学習のまとめを行う。	一斉 個別	○ロールプレイの活動を通して感じたことや気付いたことを発表する。 ○本時のまとめ、感想を用紙に記入する。	○立場や考え方の違いからジレンマに陥ることの気づきや体験を取り上げ、全体のものとして確認させる。 ○多文化共生社会実現の必要性を理解できるように導く。 ○相手の文化や立場・考えの違いを尊重し、理解して、歩みよることによって、問題が解決できるようなことが社会の中や身近な生活にないか考えさせ、学習のまとめとする。	感想用紙

●評価

多文化共生社会の実現に関心を持ち、文化や考え方が自分と異なる人たちと共に暮らす社会においても、他者を尊重し、理解する気持ちを大切に行動しようとする態度を身に付けることができたか。

平成 29 年度人権擁護啓発ポスターコンクール入選作品



京都府商工会連合会会長賞
南丹市立八木西小学校 6年
治田 紗也奈 さん